

「11月19日の月食早見盤(2)」

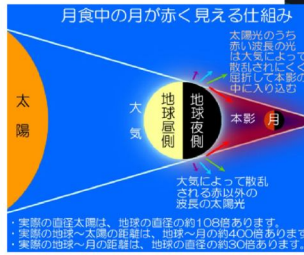
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

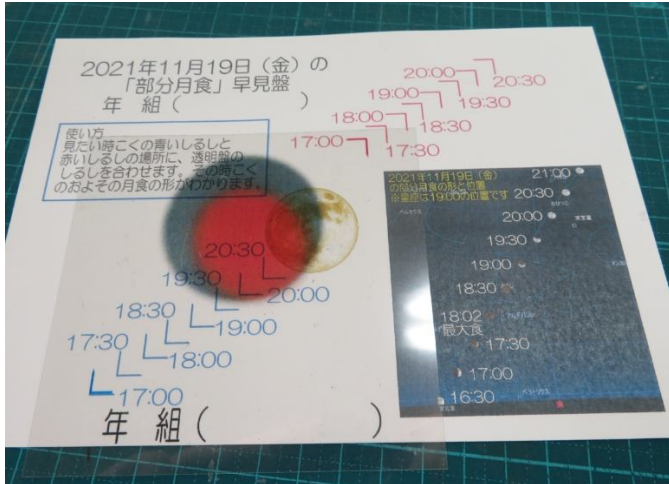
田中 千尋 Chihiro Tanaka

試作品では、早見盤の台紙に説明文や月食全体図も載せて、片面印刷のみでできるようにしたかった。

月食早見盤の使い方
見たい時こくの青いしるしと赤いしるしの場所に、透明盤のしるしを合わせます。その時こくのおよその月食の形がわかります。

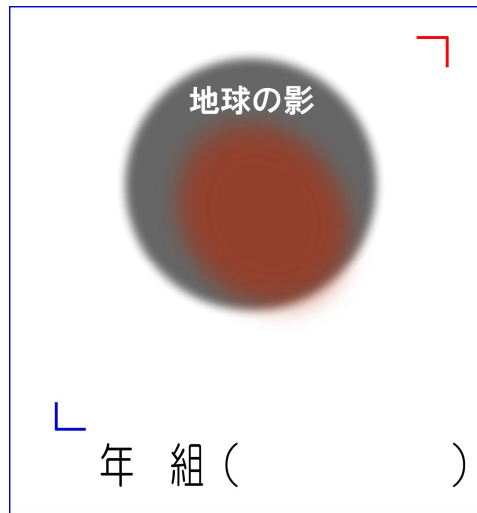


安全な場所で大人といっしょに
かんさつしましょう

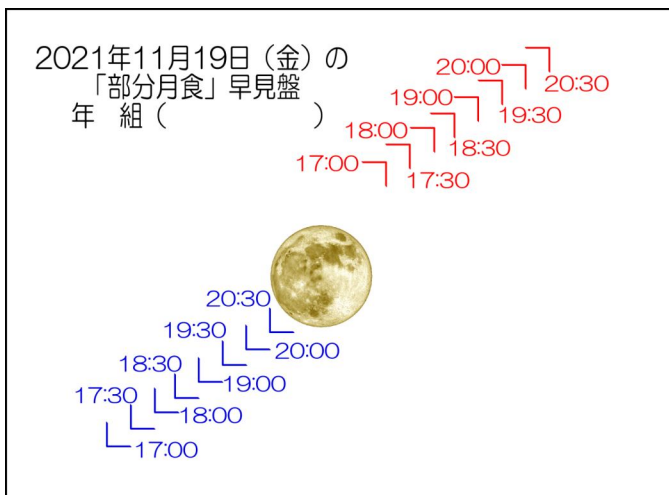


台紙の表面をシンプルに改良したので、裏面にも印刷をすることにした。簡単な使用説明文、月食全体図に加え、月食中に月が赤く見える仕組みの図も入れることができた。

しかし実際に使ってみると、説明文や月食全体図が邪魔で、見た目が非常にうっとうしい印象を受けた。月食の美しさや、時間ごとに月の様子を変化することをイメージするのが目的なので、表面にはタイトルと月(満月)それに時刻表示だけに改良した。



地球の影の部分にも改良を加えた。今回は台紙とセパレートなので、氏名欄が必要になる。「地球の影」という表示も、邪魔のない位置に入れた。



これが改良型の台紙である。タイトルがなければ何のために使うものかわからないだろう。大きさは縦13.5cm、横19cmで、8歳画用紙に4面印刷できる。月はもっと大きく描きたいところなのだが、地球の影の直径は月の直径の約2倍なので、これ以上月を大きく描くと、台紙そのものが非常に大きくなってしまふのだ。

今回の月食早見盤は、台紙に描かれた月の上に、地球の影を動かすという方式で、実際の月食の仕組みに近い。影の部分は透明なシートに印刷する必要がある。学校のコピー機はカラーレーザーなので、それに合ったOHPシート用のものをAMAZONでやっと見つけた。100枚入りで750円(送料込み)と意外なほど安価でこれで600枚の「地球の影」を作れる計算だ。